

九州支部

第40回九州支部総会を、5月26日大分県別府市にて開催いたしました。別府駅近くの「サンタ・マリア・テラ・ルーテュエ賓館」にて、和食+イタリアンを美味しくいただきましたながらの楽しい時間を過ごしました。

青山学院大学コミュニケーション人間科学部教授趙慶姫先生、同菅野幸恵先生、依田静江同窓会会長に遠路はるばるお



越しいただき、九州各県からの同窓生合わせて総勢35名で開催できました。

前日の交流会は「おんせん県おおいた」源泉数、湧出量ともに日本一!! 別府の街の散策を楽しみました。ベテランガイドさんの説明のおかげで、湯けむり展望台からの別府を一望、鉄輪の湯けむりの中の散歩、一遍上人が開いた「かななわ温泉永福寺」のご住職の「人生において大事なことは人生を楽しむことであり、感謝の気持ちを持つことである」と説法をうかがい、夜は「別府ヒットパレードクラブ」で昭和の懐かしいミュージックを楽しみました。短大で過ごした唯一無二の友人や世代を超えた同窓生の皆さまとご縁あつての交流、人生の彩りに付け加えられました。



ジェンダー研究センターの聞き取り調査を総会当日の開会前と閉会后に時間を調整し、趙先生と菅野先生と昭和40年代卒業生の2名で行われました。おふたりからは質問を受けながら自分が歩んできた人生をじっくり振り返る時間をいただけ、忘れていた自分の人生の岐路に立った時の判断を思い出せ、これからの自分の生き方をあらためて考えたり、有意義な時間をいただきましたと言われていました。

社会の変動変化の中、我が短大も閉学となり、これからの同窓会の在り方も変化していくだろうと思っっているのはきつと自分一人ではないと思います。ほんの2年、専攻科へ進めば3年、なにもわからない田舎の高校生が初めて向かう東京の学び舎、毎日がキラキラしていた怖いもの知らずの青春。私にとっては宝の場所、時間、空間でした。これを味わえるのが同窓会だと思っています。

49H 50HS 上尾くるみ(姫野)

台湾支部

端午の節句(端午節)

台湾では二十四節気の芒種を迎え、稲や麦などの穀物の種まきが始まる頃、台湾四大節句の一つの大切な行事「端午の節句」が訪れます。台湾の端午節は日本のこの日とは全く異なり旧暦の5月5日にあたり、2024年は6月10日で毎年祝日となります。

端午節は、楚国の政治家であり詩人であった屈原(くつげん)の命日です。屈原は祖国の将来に絶望し、石を抱いて汨羅江(現在の長沙の北)に身を投じました。彼を救うために、民衆が船を漕いで川へ出て、ちまきをまきました。彼が死んだあと、彼を慕う人々が屈原の霊を守るために、彼の死を偲んだことから始まりました。その由縁、端午節には「粽子(ちまき)」を食べ、「ドラゴンボートレース」でお祭りを開催する風習があります。

台湾の粽には、「南煮北蒸」「南清北重」という2つの言葉があります。これは、北部の粽と南部の粽で、作り方と味付けが異なるということです。北部粽(ほくぶちまき)



部粽(ほくぶちまき)は、炒めて味付けしたもち米を笹の葉や竹の葉で包み、蒸して加熱します(熟飯蒸煮)。味付けは濃いめで、もち米は粒粒

感がしっかりしていて、具はほとんど調理済みのものを包むので、比較的包みやすいのが特徴です。一方、南部粽(なんぶちまき)は生のもち米を包み、長時間煮て加熱します(生水米煮)。味付けはあっさりめで、もち米の食感はモチモチ。ただし生米を包むことから、さつさと包まないと米粒がパラパラと落ちてしまう難しさがあります。南部粽の特徴は、「生米包み」とのことです。その他にも客家粽、精進粽など様々な種類の粽があります。



また端午節の風物詩として、龍の頭がついたカラフルなドラゴンボート(龍船)で太鼓や銅鑼を鳴らしながら競いあう「ドラゴンボートレース」も見ごたえ抜群です。ドラゴンボートレースは前述のように民衆が屈原を救おうとしたお話に由来します。このボートは、伝統的に全長が50〜100フィートと決められており、一般的に、船の上には漕ぎ手だけでなく、漕ぎ手を鼓舞し、櫂のリズムを取るための太鼓の叩き手も一緒に乗っています。競技人口が1000万人を超え、世界中で開催される一大競技イベントへと進化しています。本場のレースをぜひ台湾でお楽しみください!

参考文献: 林芬蓉「論文」端午節供考: 中・日民俗儀礼の比較研究

平7H 何 恵琴